Fenestra

京大西洋史学報

第 4 号（2020 年 4 月）

京都大学大学院文学研究科
西洋史研究室

フェネストラ

京大西洋史学報

第 4 号　目次

論説・動向

上垣　豊

私見：概説書をどう書くか、概説書のなかでどう書くか

——『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』編集の経験から—— ..... - 1 -

藤井　真生

中世後期の彩飾写本をめぐる研究と教育の可能性

——『クルムロフ宗教論集』所収の『人類救済の鏡』から—— ..... - 8 -

福元　健之

地方医師は自らを語ったか

——世紀転換期ポーランド知識人と知のハイアラーキー—— ..... - 15 -

浮網　佳苗

戦間期イギリスの消費社会——若者と生活協同組合—— ..... - 23 -

小山田　真帆

日本におけるヨーロッパ・ジェンダー史研究のこれから

——時代・地域の境界を越えて—— ..... - 31 -

史料解説

岡本　幹生

ウェレイウス・パテルクルス『歴史』の史料的価値をめぐって ..... - 37 -

書評

谷口　良生

現代歴史学の時代区分へ

——『思想』特集「時代区分論」に寄せて—— ..... - 44 -

新刊紹介

石原　香

上垣豊編著『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』 ..... - 50 -

留学体験記
林　祐一郎
「灰色の都」で出逢った人々
——冬のベルリン長期留学体験記—— ..... - 53 -
西洋史研究室の現在
大学院生の研究..... - 59 -
編集後記

《表紙の写真》: トゥールーズ市庁舎（フランス）

1760 年に完成したトゥールーズの市庁舎は、16 世紀以来のトゥールーズ市参事会「キャピトゥール」に由来して、「キャピトル Le Capitole」と呼ばれている。市の中心に位置する市庁舎は、レンガ造りの壮麗な姿から、「バラ色の街」と呼ばれる同市のシンボルをなす。撮影時は冬だったため、市庁舎周辺の広場にはアイススケート場が設置され、夜も「バラ色」らしく賑わいを見せていた。

編集後記

『フェネストラ』第 4 号をお届けいたします。新型コロナウィルス問題がひじょうに深刻化したため、4 月には学生・院生が大学に来ることさえ難しくなりました。対面で編集することはできませんので、編集の実務を担う M2 の石原香さんと伊藤直之さんには、Zoom を活用して完全にオンラインで作業をしていただきました。谷口良生さんにも多大なるサポートをしていただきました。数年後には当たり前になっている風景かもしれませんが、そのきっかけが 2020 年のパンデミックにあったと記録しておくことには意味があると思います。

今号も、『フェネストラ』という媒体ならではの、幅の広い、それぞれに知的な刺激を与えてくれる読みやすい文章が並んでいます。上垣豊先生のご編著作成上のノウハウや藤井真生先生の史料を用いたお授業の工夫からは多くを学べますし、若い方々のお書きになったものからは、新鮮な問題意識と着眼点、貴重な実体験などに蒙を啓かれます。

世界が同時に災厄に見舞われたこの暗い現在にあって、敢えて研究から離れないでいる強靭さを持てたらと願わずにはいられません。

（金澤）

2020 年 4 月 30 日発行　非売品

『フェネストラ——京大西洋史学報——』（第 4 号）
発行者　京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科西洋史研究室
電話　075-753-2791